

2. 事業の目的と概要	
(1) 上位目標	1. 教育(教室不足)環境の改善 2. トイレや浄化槽、受水槽等衛生環境の改善 3. 地域の待機児童や復学生への救済 4. 新校舎維持管理のため地域コミュニティの組織化
(2) 事業の必要性(背景)	ミャンマー連邦共和国の初等教育は現在義務教育制度でないため、公立学校に就学するには一人年間米ドルで 100～200 が必要で、学校によっては入学金が必要になる。 この尼寺の近辺は低所得者が多く住んでおり、父兄には公立学校に通わせる余裕はない。 僧院付属学校や尼寺付属学校は無料で、教科書や文房具も支給されるので父兄は僧院付属学校や尼寺付属学校を選択する。 貧富の差が年々広がる傾向にあり、僧院付属学校や尼寺付属学校への就学希望者が増加している。 ミャンマー全国にこの様な僧院付属学校や尼寺付属学校が約 1,950 校ある。 既存のライダマティタグ尼寺付属小学校の校舎は尼寺の敷地内に木造平屋建て(55.7 m²)で、竹の皮などで編んだ壁が3方しか無く、屋根は錆びたトタン葺きである。 児童達は仕切りのない所や軒下で4クラス123名がゴザに座り、粗末な机を4人で使っており、黒板も3枚しかなく取り合いになる。校舎の中はすし詰めの状態にあり、雨季ともなれば一方から雨が吹き込み周りの児童達はびしょ濡れになり、教育環境は劣悪である。 平成23年6月の新学期から別棟の本堂(30.6 m²)1階に児童2クラス41名が新に学習している。待機児童の年齢を考慮して救済した。合計164名が学んでいる。 更に尼寺近辺の主に貧困家庭の児童約45名や復学約25名が就学を希望しているが、教室が足りない事を理由に断っている。 この様な尼寺付属小学校の状況を踏まえて、当会は尼や地域コミュニティと平成22年10月から8回程、尼寺付属小学校の状況を調査研究すると共に尼や地域コミュニティと意見交換を重ね、子ども達の教育環境の改善や就学できない待機児童の救済など、人づくりについて双方真剣に協議した。その結果、早急に新校舎(トイレ含め)を建設すると結論に達した。 新校舎建設には、地域コミュニティの組織化が必要で、財源を含めて組織の強化を図り、尼寺付属学校の運営に当たると確約した。

(3) 事業内容	1. 既存の校舎を解体した跡地に、新校舎を建設する。 新校舎の規模は、R.C 構造 2 階建て 6 教室で、新校舎建設と衛生面を配慮し、トイレ (5 基) や浄化槽、受水槽等を設置する。学校建設は、サイクロン後宗教省並びにヤンゴン管区建築局は R.C 構造を推奨している。 学校建設は、ミャンマー連邦共和国のローカル基準に準拠し、施工管理を徹底し、什器備品 (内訳: 黒板 6 面、先生の机・椅子 6 組、児童の机・椅子 (1 教室 1 6 組 3 2 名分 × 6 教室)) を設置する。新トイレは 5 基 (内訳: 男子児童用 2 基、先生用 1 基、女子児童用 2 基) 新校舎からトイレに渡り廊下を新設する。 尚、新校舎建設中は、尼寺に隣接する集会所 1 階と隣接の食堂を仮校舎として使用する。 2. 移設貯水タンクから新トイレ受水槽へパイプ接続並びに洗面所は尼寺及び地域コミュニティが責任をもって施工する。 3. 新校舎の維持管理のため地域コミュニティの組織化を図る。 メンバー 14 名の役割分担を決め、定期点検や補修の実施、維持管理に必要な財源確保等の指導を行う。
(4) 持続発展性	1. 新校舎完成後、学校管理委員会が維持管理に従事する。 学校施設が適切に維持管理出来る指標を策定する。 ①維持管理に備え役割分担を行う。 ②定期的に点検・補修を行う。 ③維持管理のため財源を確保する。 ※財源に関して確認済み。 主に上記 3 項目に関して新校舎完成までに提示し、協議の結果策定し学校管理委員会に引き継ぐ。 引き継ぎ後は、年 1 回レポートを提出、更に定期的にモニタリングを実施する。 2. 初等教育の学習環境の改善に取り組む。 児童の興味や関心に基づく能動的な学習活動を展開する教育ガイダンスを基に研修ワークショップを開催する。
(5) 期待される成果と成果を測る指標	1. 物理的な面での教育環境に関する課題を解消する。 ① 教室が足りない = 6 教室完成 既存の校舎 (55.7 m²) はバラック造りで北側には壁がなく雨ざらしの中、4 クラス 123 名がすし詰め状態で劣悪な

	環境で学習している。別棟の食堂に 2 クラス 41 名が学び、合計 164 名が就学している。 新校舎完成後は、床面積(401 m²)になり、教育環境は大幅に改善され、待機児童他約 70 名の救済が可能となる。 内訳として、進級生 154 名、新入生 25 名、待機児童 45 名、編入生 5 名、復学生 25 名、合計 254 名が就学する事が可能となる。 したがって、地域子ども達全員が通学可能となる。 ② 衛生的なトイレがない＝5 基完成 既存のトイレは貯め式で不衛生にある。 新トイレには、受水槽並びに浄化槽の設備も併設する事で清潔なトイレができ、大幅に環境改善が図れる。
--	--